

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①アニー・ローリー著『みんなにお金を配ったら』みすず書房 (2019年10月刊, 214+27p, 四六判)</p> <p>副題は「ベーシックインカムは世界でどう議論されているか?」。国民が一律に最低限の生活を送れる毎月支給のベーシックインカム(UBI)が世界で注目され、ドイツやオランダ、フィンランド、カナダ、ケニアでは試験運用が開始されている。推進派は将来の技術進歩に伴う失業問題から導入を提唱。一方で実現には莫大な費用がかかるとの指摘もある。ジャーナリストである著者は世界のUBIの状況を考察した結果、その必要性は認めつつ、「本当に不平等拡大や大量失業が発生するのだとすれば、それをUBIだけで解決することはできない」「UBIの議論ばかりに拘泥せず、富と補償、仕事と労働に対して、わたしたちの理解をもっと広く変えねばならない」との結論に至る。</p>	<p>③元榮太郎著『「複業」で成功する』新潮社 (2019年11月刊, 206p, 新書判)</p> <p>安倍政権の働き方改革の追い風もあり、著者は「副業ブームが到来している」と強調する。これまで多くの労働者が本業以外の仕事をすることに魅力を感じながら踏み出せなかった。就業規則に副業禁止を明記する企業が少なくないからだ。しかし、現在、厚生労働省は副業を許可するモデル就業規則を提示している。完全な方向転換だ。著者は今後必要とされるのは、本業の片手間の副業ではなく、本業を複数持つとの発想だと示唆。「複業」の意識を高めることで自分自身や企業を成功に導くのだという。著者は自らの複業経験に基づき、「副業を禁止する企業側とどう交渉するか」「損害賠償請求される副業とは」「会社を辞めて独立する際に注意すべきこと」など具体的に助言する。</p>
<p>②木村勝著『知らない後悔する定年後の働き方』フォレスト出版 (2019年10月刊, 310p, 新書判)</p> <p>本書は「人生100年時代を迎え、高齢者が働けるうちは働くためには何をすればいいのか」という課題に対し、具体的で実践的な解決法を提供することが狙い。昨年明示された高齢者雇用安定法の見直し案では、希望する高齢者が70歳まで働けるようにするため、これまでの①定年延長②定年廃止③契約社員での再雇用——に加え、「他企業への再就職支援」「起業支援」などの考えを打ち出した。今後高齢者は会社と対等な当事者として、現役時代から個人事業主マインドで仕事に取り組むべきだと指摘。従来のノウハウを生かし、インディペンデント・コントラクター(独立業務請負人)などの新しい働き方を視野に入れてキャリアを構築する必要性が高まっているとの見方を示す。</p>	<p>④藤田孝典著『中高年ひきこもり』扶桑社 (2019年11月刊, 255p, 新書判)</p> <p>2018年度の内閣府調査によれば、40歳から64歳までの中高年のひきこもりは推計で61万3千人とされ、若年層よりも中高年層のほうが数としては多いとも報じられ、社会に衝撃を与えた。著者は、いわゆる「8050問題」をはじめとするひきこもり当事者の家族の高齢化を問題視すると同時に、この現状に対する社会の無理解を嘆く。一度社会に出て、普通に仕事をしてきた働き盛りの人になるケースが多く、過剰に自責的になりやすい。やむを得ず退職し、経済的に追い詰められ、仕方なく年老いた親元に戻るものの、顔を合わせたくないで、昼夜逆転の生活になる。本書では、こうした中高年ひきこもりの実態に焦点を当て、当事者の声を聞きながら、とじこもる原因と支援のあり方を探った。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2019年12月-2020年1月労働図書館受け入れ)

- ⑤古川裕倫著『仕事を楽しめる人は「忙しい」と言わない』扶桑社(224頁, 四六判)
- ⑥平林猛著『棘男:労働界のレジェンド武建一:評伝』展望社(318頁, 四六判)
- ⑦廣瀬幹好著『フレデリック・テイラーとマネジメント思想』関西大学出版部(viii+285頁, A5判)
- ⑧日本経済新聞編著『ミレニアル世代革新者たち』日本経済新聞出版社(300頁, 文庫判)
- ⑨伊藤周平著『「保険化」する社会保障の法政策』法律文化社(vi+285頁, A5判)
- ⑩島澤諭著『年金「最終警告」』講談社(186頁, 四六判)
- ⑪野川忍ほか編『実践・新しい雇用社会と法』有斐閣(xvi+330頁, A5判)
- ⑫第一東京弁護士会労働法制委員会ほか編著『詳解働き方改革関連法』労働開発研究会(xiii+381頁, A5判)
- ⑬菅野和夫著『労働法 第12版』弘文堂(xxiv+1,227頁, A5判)
- ⑭座波淳著『発達障害でも働けますか?』花風社(211頁, 四六判)

労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書124,704冊、洋書32,563冊、和洋の製本雑誌26,719冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

